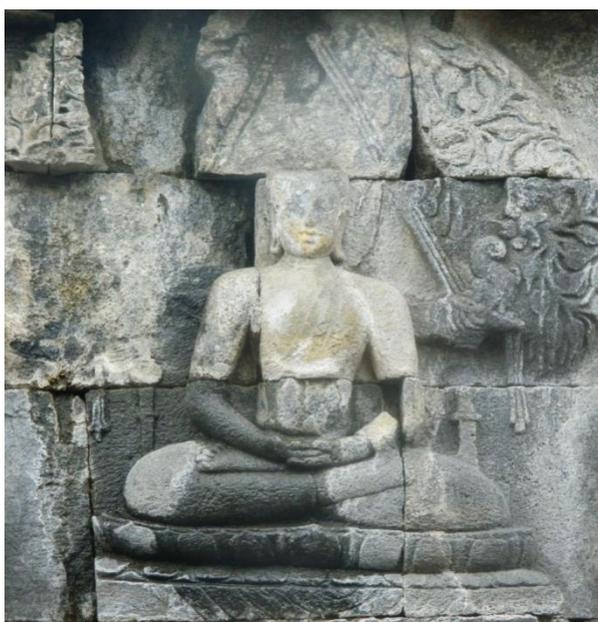


水源禅師法話集 112

(2019年5月2日 山梨合宿6日目)

2019年7月10日

一乗禅の会



お釈迦様が菩提樹の下で成道に入る前のお姿、三角の仏界の応援、 ボルボドルインドネシア

目次

水源禪師法話

金剛般若波羅蜜經の宇宙の秘密がここにある.....	3
宇宙の因果関係で色々変化する・	
上手く行けば豊かに、悪くは最悪の状態に.....	4
物質には心がある.....	5
究極の物質、ナーマルーパ.....	7
南伝も北伝も行を体験すれば同じだという事が分かる.....	8
論語読みの論語知らず.....	
本当ではないのに本当と報道、お経は嘘が本当と.....	8
本当の慈悲の瞑想は、76のカシナの瞑想法を完成した後で.....	9
経典ではなく壮絶な環境の中で実際の行を教えていた達磨大師様	11
水源禪師が体験された真実(ジャーナとニミッタを持つ事が大切)	11
蘆遮那仏と毘蘆遮那仏.....	12
ソタパナ以上の位に入った大金持ちの奥さん.....	13
お釈迦様が全てのインドのヒンズーの最高点に立つ方.....	13
因縁により本当に法に触れるという事は想像を絶する凄い宝.....	16
無所得の行動で阿耨多羅三藐三菩提を得る.....	17
このお経がジャータカ物語に絡まって行く.....	18

水源禪師法話

昨日までのお話の中で、何か疑問に思うとか、何か質問があれば、どうぞ遠慮なく。何も無いですか？じゃあ続行しますか。

金剛般若波羅蜜經の宇宙の秘密がここにある

本当に、このお経を、しっかり心に止めるという事は、八百四千万億那由多諸仏に供養するという事と同じだと。実際にお釈迦様が諸仏にそういう風に供養したと。このお経には、実際は一千万億分の一という数にも及ばないと。

実際、そういう色々な行をして、数知れない仏達に心から供養したと。まず仏に出会うという事も、想像を絶する事で滅多に出会えない。そういう風な数の仏がいるのかと。もう無量、無数の数のような仏がいるのかと。

南伝では 28 までですね。25 番目のディーパンカラからお釈迦様まで。25 番目のディーパンカラから数えてお釈迦様は 28 番目。29 番目が弥勒ブツダが今修行されていますけれども。

一劫の時間帯という事自体も 56 億 7000 万という数字、地球の年数にして、又は数え方が色々あります。25.6km の升到西洋辛子の小さい種を 100 年に一回ひとつ置いて行って一杯にするという数え方もあります。又はその 25.6km の真四角の岩、エベレストが 9000m と以下でしょう？8000。だから想像を絶するくらい大きなものを、100 年に一回絹のようなもので触ってそれが全部消えるというのが、一劫の値だと。(古典の Sruya Siddanta に詳しく載っています。)

ですから辞書では永遠とか久遠とかいつもそういうけれども、実はそういう風に恒河沙の数、10 の 50 乗とか 52 乗とかちゃんと出てくるわけです。昨日説明したように。実は非常にそのナンバーまで皆知っているわけですね。という風に太古の文明は、私達が考えているような、石器時代の人間が礎を築きあげて、コツンコツンと石で作ってピラミッドを作ったとエジプトの。未だに誰も分からない。(現代のトップの科学者曰く、超太古の文明は現代より遥かに進んだ文明です。)

そのベースは、大体 200 トンの石を綺麗に磨いた基礎を積み上げて中の方とか、現代でもそれは出来ない。ラオスの山奥に行けば、この家よりでっかい石の壺があるのですね。ゴロゴロゴロゴロと、その地下を彫ればどうなっているか分からない。山を彫って行けば、いつの遠い時代にそれが出来たかも、ただあるだけ。

ただそれは棺桶のために作ったと。でっかい 50 トン 100 トンか。それを持

ち上げるだけでも、クレーンでもその山奥、この横浜とかそういう所はあるかもわからないけれども。そういうラオスの山奥にいつの時代に作ったか分からない。それが私たちの頭。それで皆分かったと。まあそういうちょっと触りを昨日もう一回説明して、この金剛般若波羅蜜經の宇宙の秘密がここのありますという事を言いたいわけですね。

北伝の方では、恒河沙の数以上の仏がこの宇宙にあると言っています。南伝の方は 28。それ以上は言わないと。ところが私が第一禪定に入った時に、実に恒河沙以上の仏がパッと観えて、祝福してくれるわけですね。

そういう風に、このお経にこれから書いていますけれども、本当に仏というのはこの地球を粉々にして、その無数の大世界の全ての衆生が悉（ことごとく）ちゃんと分かります。一つ一つの生命体全部分かりますという、それもこれから出てくるのですけれども。

「お釈迦様がディーパンカラブツダの時、大燈明仏の時にこの阿耨多羅三藐三菩提の受記を得た」という、この事が、何によってこれが発生したかと言えば、永遠のもう時間帯は永遠と言うしかない。そういう風にデバダッタが何回も何回も、昨日のお釈迦様の過去の話も。

宇宙の因果関係で色々変化する・上手く行けば豊かに、悪くは最悪の状態に

ブラマダッタ王というのは幾らでも出て来るわけですが、インドの世の今の名前が。丁度、私が昨日そういう事は有り得るのか？と。ちょうど春になればタンポポが出てくるでしょう？冬になれば消えると。このダークマターのこの大地の上には、そういう風にこの地球が発生消滅発生消滅、という風に観た方が、この話がぴったり合います。

だからテスラという人が 100 年前の文献を読んだ時に、この地球は不思議なものであると。「この地球は消えたり出たり消えたり出たりしている」と。この人が今の現代の全てのセルフオンとかその原理を作った人で、この人が時空を超えて未来に行って帰って来るといふ、アル・ビイレックとアインシュタインと一緒にフィラデルフィア・エクスペリメントした方です。

だから、時空の事はアメリカの方がよく知っているわけですが。日本の方はこういう凄い経典があっても、一体何を言っているのか分かってない。私達がこういう風に使っているケミカルと、こういう事あるでしょう？こういうじつて。

この植物とか山とか。これはただ出来ているわけではないのです。宇宙の因果関係の操作で出来ているから、色々変化していきます。上手く行けば豊かになるし、悪く変化して行けば非常に最悪の状態が発生します。

クジラには歯が無いでしょう？ペルーの Chiclayo(チクラヨ)という消えた

文明のそのの近くにクジラの骨あってね、歯がちゃんとあるのです。サイズはクジラの大きさという風に地質学的にも、まだ私たちは殆ど何も知らないし、それから進化論もただそうだという事で信じ込ませる宗教的な事であって、実際はどういう風になっているか。それは宇宙人の方がよく知っている、ちゃんとレコーディングしているから。

何故かと言えば、日蓮宗の日本山妙法寺日達上人が、世界に沢山仏塔を建てているのですよ。インドとか。それで、そこのお坊さんがスリーパータのお坊さんが、非常に私を親切にしてくれて。

「よしよし、よく来た」と。その時、お粥を作ってくれたり、味噌汁を作ってくれたり非常にもてなしてくれました。やっぱり修行されていますからね。毎日トントコトントコあそに上がるのですよ 45 分で。45 分でトントコトントコトントコ。

その方が、実は私が他のお坊さんと一緒に修行をした時に、この窓の側で座った時に、宇宙船が降りて来たという。お坊さんが言うからそういう作り話はしないです。特に私のために、味噌汁とかお粥、日本の沢庵を持って来て。

それで、面白い一杯体験談、霊能者の話とかね、色んな話をしてくれました。特にアチェ地震で何十万って死んだでしょう？その時に彼がトントコトントコトントコと上がる時に、途中で足ががっちり止まったって。動かなくなったって。地震とトントコ上がって行くのは関係ないでしょう？

その発生した後、遠い所で発生した後、足がガッチリ動かなくなったと、何故か分からないけれども。それで六万人か何万人か死んだのですねその後。スリランカの海岸の方が全部。そういう風に、私達が住んでいるこの地球上は、私達は分かったつもりで殆ど何も分かっていない。

物質には心がある

一番ピッタリくるのは、お釈迦様の過去の体験のジャータカ物語を現在の時空とか、それから色んな科学者の検証してみれば、どうもこっち（ジャータカ物語）の方が正しいとなります。

特に 100 年前に、物理学の教室で私が習った光ですね。ダブルスリットでこう光出すしょう？そうしたら、その後、波紋が出るでしょう、波みたいに。それでアインシュタインの理論と、パーティクルであるこのフォトン（粒子）がどうして波になるかと。

それで量子力学とアインシュタインの粒子力学の討論が 100 年前から続いているわけです。未だにどっちかどっちかと一般的にはね、一般的には。

それで、あるアメリカの科学者がつい最近、人間が一切触らずに、機械で自

動的に一回一回発射する時にやってみたのですね。そうしたらアインシュタインの理論が合っているわけです。人間が観た場合には量子力学、機械が観た場合には時空が消えてしまう。

人間がこう観ているのでしょうか？そうしたらこのフォトン同士が、この光の粒子がお互いに話をして、そういう波形を作る。私たちが観てないで、機械だけでランダムにね、ランダムに一回一回撮るわけです。いつやるか分からないように、絶対に人間とは関係なく。そうしたらちゃんと粒子がパパパッと出てくる、ということは、物質に心があるという事。一切唯心造と私が言ったでしょう？

だから、そういう事で仏教者ほど、本当にそれを心眼で確かめないとイケないわけです。全く修行しない、経典だけやっても一体それは何を意味するかは分かっていない。空経無我文十七番。

要約していけばどういう風にしてお釈迦様が受記を得たかと。実に無有法を実行したから。その時お釈迦様の名前はスメダと言います。という方でそれまでにお釈迦様は、あの星を見てくれと、あれくらい私は目を抜いたと。あの山々見えるかとあれくらい私は自分の首を落としたと。

という風な、無量永劫の時空を経てやっと菩薩行に入ったわけ。三阿僧祇劫という。またこれも、一番短い時空で成道したわけですねお釈迦様。カクサンダーブッダの場合は八十阿僧祇劫とか決まっているわけです。どれくらいの時間がかかるか。

だから、私達「無我無我」って言うのでしょうか？私ではない、あなたあなた、アタではないという事を実際に実行したわけですね。ディーパンカラブッダが通る時に道路がちょっと濡れて水たまりがあったわけですね。そこスメダが五体投地して髪をスッと投げてそれで通したわけです。

その時に、大燈明ブッダが「お前はこれから釈迦牟尼という仏に、この地球で生まれる」という事を予言したのです。それから色んな、また話があるわけですね。その後の菩薩の話が 500 ジャータカ物語、その時間帯も、夢か誠かおとぎ話みたいな事が一杯書いてあるここに。

だから結局、私たちが信じているこの物質の本体が、アメリカの学者がもう一回 100 年前のその実験を今度は、30 年かけて徹底的に検証していったわけです。

最新のコンピューター使って最新のカメラ使って全部やって、そうしたらこの粒子同士がお話しているという。仏教から考えれば全然問題ないのだけれども。ここは仏国であるわけ日本では。この話を皆さんに私がすればマルキチ。アメリカでは最高の学者は OK。という事は日本は完全に滅法の時代に入っているという事。何も分かっていない。

【司会者】

P さんのお家の麴菌もお話してましたね？

【水源師】

そうそうそう、麴菌もお話していた。喜んでいた。

究極の物質、ナーマルーパ

だから一切物は、一切の衆生という。そういう事で、無量無辺で空。空というのは、大きくもなく小さくもなくというでしょう。汚れもしないし、量も増えないという、究極の実態がそこにあるわけ。この般若心経。

そして、この般若心経では、こう言っているのではないですか。その故に空の中には、無色 無受想行識、結局物質とそれからコンシャスネ (consciousness)、ナーマルーパ。それでパオでは、その所を徹底的に勉強させるわけなのですね。54 の眼の物質とか。私が言ったように物質というのは、

Earth element (pathavī - dhātu) 地、

Water element (āpo-dhātu) 水、

Fire element (tejo-dhātu) 火、

Wind element (vāyo-dhātu) 風、

Eye transparent element (cakkhu-pasāda) 眼、

Ear transparent element (sota-pasāda) 耳、

Nose transparent element (ghāna-pasāda) 鼻、

Tongue transparent element (jihvā-pasāda) 舌、

Body transparent element (kāya-pasāda) 身

その他に色、音、匂い、味という element もあります。という風に 28 の element があります。

neutral element、life facility、heart material element、male、female element、男は一つ女は二つ、18 プラス、トータルで space element、body、integration、形をとる element、トータルで、全部でこれを入れれば、28 になります。

28 material element という風に、お釈迦様は強烈に究極の物質の世界も全部観ているわけ。「眼、耳、鼻、舌、身、意」ここの所ですね。

南伝も北伝も行を体験すれば同じだということ分かる

という一切そういう事を離れて離れて離れて、お辞儀をするでしょう？チベットの五体投地。それからチベットではそれをズーッとやって、スメダ菩薩の時みたいに。

それで、朝から晩までそれを繰り返して。ブッダガヤで繰り返していました。体を使って実際に。実際に同じようにお釈迦様みたいに。そういう事をやるわけですね。そういう事によって私は、ディーパンカラブッダより受記を得たと。その時には、こうする、ああするというそういう法ではないと。実に法の形を取らないという法の上でそれを取ったと。

それが実に面白い事に、メイソン、メイソンって知っています？アメリカを作ったメイソン、フリーメイソン。全ての大統領は、33 の最高の階級があるわけですね。それでなければならぬわけです。フリーメイソンには色んなロッジという組合がというか、ドイツ系、イギリス系、フランス系、スコティッシュ系と、32 フリーメイソンまでは法式があるけれども、最後の 33 は無いわけです。

無法という自分で一切のそういう法はない。非常に究極の所は、実際の人間の心として、同じような事が発生させるわけです。という事は、私達はどんな顔をして、どんな国に生まれ、どういう文化をとっても、究極的には同じような行動をしてしまうと。

だから、人間ブッダがこうして人間界に現れて、こうして如何にして阿耨多羅三藐三菩提を得るか。特に私達は南伝、北伝と言っているでしょう？実に面白い事に達磨多羅禪経を觀れば、まあ、よく似てる事。

このパオサヤドーの内容と。やる事が。結局、カシナの瞑想法、アナパナを使ってね。それから不浄觀、12 因縁、全部ここにあるわけです。簡単に中国語で。これが書かれた時代は、3 世紀ですからね。パオは 2600 年行法を守っていたわけです。モーラミヤインで 2600 年。今から 1700 年前のこの教本と 2600 年前の行が、この 2007 年に私が体験した事が、これピタリと二つ合っているわけです。

論語読みの論語知らず・本当でないのに本当と報道、お経では嘘が本当と

話は進みます。つまり誰もお経を読んでいないという事ですね。お経の本を読んでお経を読んで、論語の論語を知らず、論語読みの論語知らず。まさに私達は一緒。

というのは、本当の事を知らせず、こういう本も手に入らないでしょう？ま

た私が言った安慧菩薩の仏教の究極の所も、南伝も北伝も同じ事を言っているわけ、アビダンマ。だからそういうものを全部隠した時に、天眼というのは神の眼と言いますね。

これから言いますけれども。そういう天眼で観れば、まず観えるか分からないけれども、私達一般の眼では、とんでもない話で、全部上様の言う事が全部本当であって。本当の事は嘘だと。

だから、このお経で何回も言うように、本当の事は実は嘘であると。それが本当になっていると。じゃないでしょう？そうでしょう？新聞とかテレビとか。実は本当ではないけれども、本当という事になっている。

本当ではない事が実は本当であるけれども、本当ではないという事を、何回も私達はこのお経でしつこく言っています。

という風な生き方を私達はしているわけ。そういう風な事を、どういう風にして私達は観えるのかと。それで、こう言うわけですね。「お釈迦様は人間の眼を持っていますか」と「はい」「お釈迦様は天眼をもっていますか」天眼という意味分かりますか？これも説明しなければいけない。

本当の慈悲の瞑想は76のカシナの瞑想法を完成した後で

カシナの行法をやれば神通力ってあるでしょう？神通力。天眼で観れば、ニミッタで観れば全ての世界を観て行くわけですよ。それを天眼と言います。

ですからパオでは、本当に天眼を持ったかどうか調べます。ニミッタを持ったかどうか。じゃあニミッタを使ってどどこ観なさいと。報告しなさいと。それで私が、サササササ〜と、よし通過、次の教科。

ここですね。般若心経の眼、耳、鼻、舌、身、結局眼の事を今言いました。それから耳で聞く、全ての音を宇宙の事が全て音で分かるという。五つの神通力があります。空中を飛ぶとか、カシナの行法によってすると言っています。

でもパオセヤドーは、神通の方は止めなさいと。普通の行法の方で行きなさいと。そしてある比丘尼が「どうしても神通を知りたい」と。「じゃあよし」と。カシナの秘密があります、やり方が。カシナというのは知っていますか？

カシナの瞑想法。カシナの瞑想法は、76の瞑想法があります。それを全部やらせませう。一応参考のために。これをやらなければ、四梵天住（ブラフマ・ビハーラ）の行が出来ないわけです。四梵天住というのは、結局、メッタ、カルーナ慈悲の瞑想あるでしょう？慈悲の瞑想、ちょっと少しやってもうあれだけの事が発生するでしょう？

それはお釈迦様の言葉で私が伝えたから。あれを日本語とか他の言葉でやっ

ても、殆どただ気持ちが良いという事で、あなたが体験した事の世界に入っていけない。それもほんの少しだけ。

本当の慈悲の瞑想は、76 のカシナの瞑想法をやった後で、しっかり完成した後で初めてこの四梵天住のメッタ (mettā)、カルーナ (karunā) の行に入っていきます。その中の本の一部。それでムディタ (muditā) 歡喜, それからウペッカ (upekkhā) 捨という風に、面白い事にちゃんとカシナの瞑想が書かれているし、四梵天住の法をやらなければいけない教科も書いてあるわけです。

という事で、何か日本では南伝はこうだ、北伝はこうだなんて、結局勉強してないわけですね。全然勉強してない。それで分かるわけです。このお経では止めなさいとそういう事は、そういう事をやれば地獄にまっしぐらだから止めなさいと言ってもやっていますね。

特に自分勝手に仏法はこーだあーだと、仏の名前を使って色々やるという、これはもう狂気の沙汰。そこで勉強された方は、もう手を付けられない所に進んだという事で。全く違う、行法というのはここ、1700 年前、2600 年ズーッとパオで守って来た事を、2007 年に私が体験して、同じ事を私が言っています。強烈ではないですか？この話。



経典ではなく壮絶な環境の中で実際の行を教えていた達磨大使様

これはダルマバダッタという方が翻訳されたわけですね。天竺というのはカブール、アフガニスタン、本当に天竺です。ヒマラヤの天でしょ、傘がかかったようなオアシスタウンで実に良い所です。

クシャン帝国があった。バーミヤンの偉大なブツダ像が出来たのは、そういう超大国で最高の金持ちの国だった。だから達磨大使様がチェンナイからズーッと南を守って行った時には、南伝のこういう経典でやっていたけれども、そういう風に経典ではなく実際の行を教えていたわけですね。

それが524年とか、526年に行ったとか。まあ2年の差でこちやごちやと言っているけれども、もっと大切な事、一体何を伝えたかが大切でしょう？何故かと言えば、学者たちは524年か、526年かが最も大切なわけです。それは仏法とは関係ないわけです。それが仏法の研究になっている。ちょっと狂っていませんか？お釈迦様の、達磨大師様が少林寺に上がってどれだけ苦労したか分かります？ズーッと水とかも飲めないのですよ。

水はズーッと下の3時間くらいの下のところ流れているくらいで。上の方はないです。私も座りましたけれども。だから毎日毎日ご飯を上げて持つて行くという風な。少林寺というのは岩山で何も無い所。何も無い所。その近くに高耀館と言って、孔子様の学校があります。2時間くらいの所に。そこに9年間じっと座って待つという。まさに神通力を持っている方で。

だから、その後てくてくとパミール高原を回ってカブールに帰ってインドに帰って行ったと。つまりこの経典が、3世紀にもうちゃんと翻訳されて、つまり今の新疆トルキスタンという名前です。そこから今のトルコまで行きましたけれど、そこからその方々がズーッとトルコに攻めて行って。

だから達磨大師様が、そこを通過して帰る時に同じ道だから、それでこういう達磨多羅禅経という事がもう書かれてあるから、それを自分が示しながら、乞食しながら帰って行ったわけですね。

水源禪師が体験された真実(ジャーナとニミッタを持つ事が大切)

という風に、ジャーナを持つ事が一番大切なわけですね。ニミッタどっちでも。とてもニミッタがなければ、この行法に全く入って行けない。全く入って行けないようになっているから。

ただそれをするには、やっぱり私がパオではもう皆びっくりするくらい、凄く速さで行ってしまったものだから。それでも最初の通過点が2ヶ月以上かか

ったかな。毎日 10 時間は座るからねジューッと。ジューッと、一点だけ、一点だけ。

だからここにも書いています。不動の境地にサンマヤの不動ですね、不動、サンマヤ、三昧、ジャーナ、オンサンマヤサトバンの不動の位置に行くには、一点のところを観なくてはいけない。一心。それが「あーだこーだ」と言えば不動でなく、もうニミッタなんて使えない。はっきり言って本当のニミッタは発生しません。

ここにちゃんと書いてある。同じ事、私の体験した事。まあこの本が正式に翻訳されるという事は、まず無いと思う。今の日本でやっている事があまりにも違うから。これが出れば困ると思う。つまり間違っただけ全部教えられているという事が分かればどうします？大学の先生から何から。発表も何もしてないし。だからこの経典を正確に訳すという本は、まず無いと思う。

というのは、これが商店には出るとは出ないけれども、これが本当に何を意味しているかという解説する人が必要です。という事は南伝と北伝をちゃんとやっていなければ、この意味する事がどうにでも解釈されてしまう。という事が現実に今の私達の世界です。誰かさんが本を書いてこう言えばそうなる、誰かさんがそう言うてすればそれが皆常識になる。

盧遮那仏と毘盧遮那仏

特に奈良の大仏は盧舎那仏でしょ盧遮那。辞書では毘盧遮那、盧遮那は一緒だと言っているでしょう？違います。毘盧遮那は千回仏になられた方、盧遮那は十回。観音様は第二の仏になる事を目指して、観音様の名前は正法明如来という名前だった。それから観音様になって、もう一回菩薩行をやっているわけです。第二の仏になる事を目指して。

それで阿弥陀様の後に観音様が未来劫千仏の NO. 1。賢劫第一仏がカクサンダー、実は阿弥陀様の事。という想像を絶するような事だけれども、これが本当は実際。私のそう言っている事で。

じゃあ毘盧遮那仏が千回やっているから、その方から直接教えを受ければどういう事になるか分かります？一瞬にして燃え尽きてしまうから人間だったら。それでも大日如来、とんでもない話で。フィルターがいるわけです。それで盧遮那仏十回。それでも直接は無理でお釈迦様が受け止めて、だから法身というのでしょうか？法身、法、身を法身と。毘盧遮那仏千回になりました。言葉だけは良いですね、法身とかそういう事を言うけれども。だから法身仏、何も分かっていない様ですね。

十回なった盧遮那仏は奈良の大仏様が報身仏、報身というのは報道の報、今度お釈迦様のアバターになって、お釈迦様が応身仏アバターになって私達にこの究極の教えを教えているわけです。

だから十回なられた毘盧遮那様もそのままにはならない、だから真っ黒け。私達には観えない。でもそこに飾っている仏は全部金色でしょう？だから私達は壮大な大世界に生きているけれども実は凄い壮大な大世界に生きているけれども、一瞬たりともその日を観ることなく死んでいくわけです。一瞬たりともその真実を観る事がなく本当の光を観る事がなく死んで行くわけです。

ソタパナ以上の位に入った大金持ちの奥さん

だから 17 番のここで本当に心から信じた人は、16 番だったかね、あれだこれだと言わないで心から上品の方ですね。上品、中品、下品。本当にそれを心に受け止めた方は、そういう心で布施の行をやった方は、ただそれだけでも日の光を観て明るく照らす、そういう一瞬の光が手に入る、これはどういう意味をしているか分かります？ソタパナ (sotāpaana、預流果)に入ったという事。

お釈迦様は、誰でもそこに入れるという事をしているわけです。お話したと思いますよ。ある大金持ちの奥さんが「お釈迦様の法を聞きたいから、お父さんに何とかしてくれ」と、「よしよし」と、そうすれば「一日小判一枚のお茶屋の最高の花魁を 10 日間あなたの家に呼びなさい」と、「それで旦那さんと一緒に遊ばせなさい」と、「そうしたら、10 日間お前は時間があるから」と、そしてお釈迦様が来る時に一生懸命料理を作ってもてなして、そしてお釈迦様の話を聞きに行くわけです。

それでこの方が旦那さんも良い思いをして、でもこの奥さんは本当に法を知りたいから、焼ききもちなんて心が発生しないわけです。そんなものはほっといて好きにきなさいと。

それを見た絶世の美女、その町のインドの最高の美女が、この奥さんに焼きもちを焼いてパーッと熱い油をかけたわけ。魁やきもちで。それでも一切抵抗しないで素直に受けて、受けたお陰でそれがスッと消えてしまって、確かソタパナ (sotāpaana) 以上の位に入ったはず。無我の境地。本当の無我の境地。

お釈迦様が全てのインドのヒンズーの最高点に立つ方

つまり、本当の行動なくして仏法は学べないわけです。だからお釈迦様が一切の無我の境地で、ディーパンカラブツダが来た時、徳を取ろうという事でやったわけではない。その前に、天界の星の数くらい自分の眼を抜かれたわけです。観る山々の限りない山々くらい自分の首を落としたわけです法を求めるために。というベースの話があるわけです。

それで菩薩になって、今度はやっとこのジャータカ物語の話が始まるわけで

す。過去にどれくらいの仏があるという事は、ちょっと今の私の話で分かるはずです。想像を絶する本当に考える事も出来ない。想像する事も出来ない。というお伽の中のお伽に私達は生きています、こうして。

ですから、この全ての仏はここから出ているという、このお経ですね。このお経は無余涅槃に入る直前に須菩提（スボダイ）長老にお話したわけです。須菩提様は最後の比丘。沢山の 1200 それ以上、もうお釈迦様は一杯比丘比丘尼を作ったけれども、比丘比丘尼の最後の方です。一番の最後。

それはまた理由があります。最後の方が一番強烈に修行をしたわけです。全インドの全ての学校を収めた方。だからこれを渡せたのです。それも異空時間で。皆はただ座っているだけだけれども。その異空時間で全てを教えたわけです。インドのヨガの最高の行者の秘宝をお釈迦様は受け取っているから。

お釈迦様が全てのインドのヒンズーの最高点に立つ方。神は別として。人間として。勿論神が人間に教えるという事もあるけれども。実際に人間の身体を持って人間の教えを受ける事によって、初めて究極の涅槃の世界に立てるわけです。

だからこれ程、お釈迦様の教えは凄い物だから。まかり間違っても、南伝の方は一言でさえ間違った事を言うのを恐れて、絶対に、今みたいな日本の現状は、もう恐ろしくて、恐ろしくて。気が狂う世の中である事が分かるから、黙っている皆。

それを勝手に「こーだあーだ」という私だって出来ない。私はただお経をやった通り先生から教えられました、そのお経の事が発生したから言っているだけの事であって、何も私が作っている事は一つもないです。恐ろしくてそんな事は出来ない。何の為に。

私は美味しいワインを飲んで、美味しいハムを作って、広大な大地でゆったりと生きられるのに。南国に行って全くこういう必要はないけれども。やっぱり、こういう偉大な教えを受け取ったが故に、私だけ宇宙の最高の果物を食べれば地獄の最悪の所に行ってしまう。やはり皆さんに奉仕して、少しでも。それでやっと許されて2年間の休暇を貰えると。

このお経をよく読めば、前世の一切の悪行が消えてしまうと、ちゃんと行をして。どういう風に行をするかと言えばこういう事になるわけです。法随観、こっちもやはり達磨多羅禅経というけれども、法随観ですね法随観。チッタヌパッサナーと言って内容を見れば殆ど同じ事を言っています、教科も。最終的には 12 因縁も観なければいけないし、法華経を読むには 12 因縁をマスターしなければ読めないと法華経の最初に書いてあります。

そうしたら、当然この法随観をやらなければ観えるわけがない。ただ空読み、恐ろしい事。という事をクルクルクルクルクルクルクルクルクルクルやっていると、

クルクルクルクル。これが本当に悪魔の手法。

私は観ました。本当に私観ました。悪魔の上にね、クルクルクルクルクル回っているのですよ。あの太鼓みたいにクルクルクルクル、え、なんで？この人間の頭の上にと。ハア～悪魔がいるのだから。

それで、皆その前で恭しく音楽を聴いて、瞑想だと言うのだけれども寝ころんで。もう座れないからね。私はそこに呼ばれて行って、いやあ、それがとっても西洋の方では人気のある人で、超大金持ちしか行かない所で。観れば、あら～ここで本当に悪魔、クルクルクルクル本当にクルクルクルクル。

【参加者】

何が回ってる？

【水源師】

何か太鼓みたいなのがね、クルクルクルクル。

【参加者】

太鼓(笑)。



仏牙歯のある 靈光寺、北京

因縁により本当の法に触れるという事は想像を絶する凄い宝

【水源師】

頭の上でいやあ本当。その陰の映像が観えるわけです。暗き世界、地獄ではない暗き世界。餓鬼の世界サーッと。それが何故、観えたかといえば、やっぱりパオで修行しててジャーナの力があるから、ジャーナに入らなくてもこの眼で。

さっき言った仏は、お釈迦様は天眼があるかと、天眼を持ったからそれが観える、肉眼を通して。だから本当の世界は観えないから本当の世界という事。人間は「これだあれだ」本当は嘘が本当でしかないでしょう？本当は実は嘘である。だから皆さん本当だと信じている。新聞、テレビ、本、情報、どこまでそれが本当か自分で試して初めて分かる事であって、本当であるというのは嘘であると。だからそれが本当なわけ、この世は全て。という事をまず気が付きなさいと。

どういう風にして実無有法というのは阿耨多羅三藐三菩提のこの中は、実は実態が無い。無いからといって空っぽではないと。無いのでもない。だからこの世とこの世の眼で観たのでは受け取れないという事。

この世の頭でいくら考えてもこういう法は受け取れないと。もし頭で考えてこれがあーだこーだと分かればそれは全部嘘になるという事を言っている。という一切の仏法はこういう風になっていますと。

だから本で「あーだこーだ」と分かれば、それは全部嘘。誰かが「あーだこーだ」と言って分かったそれも嘘。ただお釈迦様が「あーだこーだ」と言ってその瞬間に悟った方と言葉で、実際の世の事ではなく。それが本当の事。それがこの世に無いから。この世で言い表せないから。

つまり、私が言っている事は、本にも無い、テレビにも無い、全く新しいような事で、ショックを受けるような事であると。でも私は本当の事を言っている。世に無いけれども、実際本当である。けれども世に無いという事。

だから、本当に法に出会うというのは実に難しい事。皆さんはそれしか無いから誰かさんがこう言ったとか、テレビとか何か本が出たとワーッと行くでしょう。それしか無いのだから。

だから、全ては因縁でしか出会えないわけです。という風に如来の説法というのはちょうど皆さんが小さい時の心掴めますか？小さい時の。思い出しはするけれども心はちゃんとあるのだけれども、その心は掴めない。今あなたの心を掴めますか？明日の心を掴める？という風なお釈迦様の説法です。お釈迦様の説法とはそういうもの。

という風に法に出会ってそういう事に触れたという方は、この三千大千世界この大宇宙を全て宝石、宝物で布施するよりも、こういう本当の事を聞くという事自体は、如来の説法を聞いたようなものであると。そういう全宇宙を埋め尽くす宝よりももっと凄い宝なのですよと。そりゃあそうでしょう？もう想像を絶する仏がここから出ているし、その真実をここでお話しているから。

そういう事をじゃあ色、形で「これだあれだ」と観えるのかと。それでは絶対観えない。「これだあれだ」と分かった、それは皆全部違いますと。

こういう事を聞いても、一般の人はああ～それは違うだろうと。そういう事が一般方々であるという事は、こういう風なね、摩訶不思議な頭が痛くなるような、想像を絶するような話は、ああそんなもの嘘でしょと。それより漫才の方が本当だと。というのが私達衆生の世界であると。

無所得の行動で阿耨多羅三藐三菩提を得る

つまりどういう風にしてこの阿耨多羅三藐三菩提を得たかと言えば、一切何も考えないで無我無想の境地でただやったと。尊い方という事も無かったのだけれども、ただ通したというアクションですね行動。

これは本にも書いていないし、お前こうすればこうなるよという事でもないし、という無所得ですね、という無所得の心によって阿耨多羅三藐三菩提を得たという事。

ですから阿耨多羅三藐三菩提を得るというのは誰にでも一切の生きとし生けるものにとって平等であると。お釈迦様はその時、昔 golden deer 金の鹿の時に、王様とお話してその時十の波羅蜜を教えた。まだ仏になる前でもそのくらい。

結局、無我無想でディーパンカラー仏にお布施したわけですね。水の上に自分の髪を敷いて通って下さいと、それもお布施になります。アクション。まあそういう事で。

こういう風に、こういうお経をしっかりと解読してお話するという事は、これは須弥山王が七宝の宝を持ってこの三千大千世界にお布施する事に比べれば、その100倍も百千万千億の数字でも及ばないという功德があると。

というのは、もうここから無量の仏が出るわけですから。阿耨多羅三藐三菩提、阿耨多羅三藐三菩提、虚空蔵菩薩のマニジュ。Om・Mani・Padme・Hum (オム・マニ・ペメ・フム)、だから私は音楽かけるのですよ。阿弥陀の音楽か、またはチベットのオム・マニ・ペメ・フム、オム・マニ・ペメ・フム♪、ってよく聞いている。今何時？

【司会者】

はい、8時43分

【水源師】

ああそうか。まあそういう事で自分があれだこれだという風なそういう考えは辞めなさいと。さっき言った法身と。言ったでしょ毘盧遮那仏。法身、毘盧遮那千回仏になられた方の想は「あれだこれだ」と音とかそういう事によっては求められないと。

そういう風な学識とかそういう事でやる事は全て邪道であると。全て邪道ですと明快に書いてある。そうでしょうか？慧能大師さまがこの音を聞いて分かったくらいだから一切勉強していないですよ。その前に無量の修行をしたわけですね。それでそれに出会った時に、つまり天眼、天耳、神通力ですね、

天眼とか天の音が聞こえるという天耳、持っているわけです、持ったわけですね。そのお陰で私たちはこのお経が実に大切であるという事。その前に達磨大師様がインドに帰る前に「このお経は大切ですよ」と言ったお経なのです。まあ、ちょうどこれくらいで良いかな？皆さん一生懸命頑張って話も滅茶苦茶に長くなってすみませんでした。

このお経がジャータカ物語に絡まって行く

本当はこのジャータカ物語の大切なところもあるのだけれども、それは明日のお楽しみ。これに絡まって行くわけですよ、全部。お話がね、話がここに。ちょっと軽くジャータカ物語がどういう風に絡まるかという事ですね。簡単に言います。

その昔、ある王様が、「自分は汚れなき間違いのない生活をしたい」と。「どういふ風にすればそういう生活が出来るか？」という事で、バラナーシの人皆聞いても分からない、宮殿の人に聞いても誰も分からない。それで自分の宮司チャプリンと一緒に旅に出たわけです。王様の姿を隠して。

そして、ある大金持ちの所に着いた時に、大金持ちが「ああよく来ました」と、足を洗って丁寧にしたわけですね。その時に勿論食事を用意してあげたのですけれども、そこに聖のブラミンが来たわけですね。またそこに山で修行をしている仙人の行者も来たわけです。そこにペティカブツダも来たわけですからここに。

そして、その王様に大金持ちが、素晴らしい食事を与えたわけですね。王様は「いやあ、やっぱり私が食べるよりも聖様にまずあげた方がいい」と。聖様

は仙仁の行者、手はぼろぼろ、髪は長い、山で暮らしてただ行ばかりしているから。のその方にあげたわけです。そうしたらその方は、ペティカブツダにあげたわけです。それで、ペティカブツダが食べてそれからすーっと帰って行くと。

ここに、人間として間違いを起こさない行法を教えて行ったわけです。というのは順番があると。つまり王様よりもこういう風に行をしているの方が偉いと、尊いと。こういう方よりも仙人のように山に入って爪はぼろぼろ、髪はぼろぼろの方が偉いから、そこが分かるから、食べ物をあげた。その仙人よりも偉い方がペティカブツダだと。

ペティカブツダというのはサンマーサンブツダサの後にペティカブツダが出るわけですよ、いっぱい。白仏と言って日本ではあまり知られていないけれども、この方達は一切悪い事をしない。尊いことばかりするわけです。でも教える事が出来ない。寿命体もどれくらい長いかわからない。岩の中に入って住むし。

その上がサンマーサンブツダサ様。という風に、その時の仙人が実は私だったと。その王様は実はアナンダだったと。という風にカルマがいつもこういう風に回ってあるからです。

それで、ちょうどこの全部お経が因縁に、ただ因縁によるだけで、その因縁による時のアクション、アクションですね。スメダゴゴータマ菩薩がやったアクション。そのアクションだけがどういうアクションをするかという事が清浄、清く汚れなき生きて行けると。これが清浄論ですね。

ヴィスツディ・マツガ (Visuddhimagga)。清浄論、:Visuddhimagga と言います。magga。清く生きる方法がこの行であると。つまりアナパナでニミッタ出してとか、またそれでなくてもヴェーダヌパツサナー、チッタヌパツサナー、カヤヌパツサナーが全部入って行きます。

という事が、この達磨多羅禅経にちゃんとその教科が入っている。全部入っている。サティパターナ。ま、今日は又遅くなつてぐっすり寝てください。じゃ回向。



水源禅師法話集 112

(2019年5月2日 山梨合宿6日目)

2019年7月10日発行

編集兼発行 一乗禅の会